

東京文化会館モーニングコンサートは、上野中央通り商店会の方々のご協力により、2005年より継続してまいりました。この7月にはめでたく50回を迎えます。それを記念し、Vol.44(2011年1月)より毎回1店舗を(今月のお店)として皆さまにご紹介しています。モーニングコンサートの後はぜひ、上野中央通りのお店にお立ち寄り下さい。

## 《今月のお店》 鈴木演芸場 (すずもとえんげいじょう)

インタビューにお答え頂いたのは...

### 鈴木 寧さん

鈴木演芸場 席亭(寄席の主人)

大学卒業後、テレビ番組の制作を経て鈴木演芸場6代目の席亭になりましたが、驚いたことにそれまでは寄席や落語に興味がなかったそう。色々な噺家さんを夢中で聴くうち「老舗だからこそ最も新しいことをしていかなければ」と感じ、新たな番組編成やインターネットによる情報配信を取り入れるなど「寄席のある街＝上野」の発展に情熱を注がれています。趣味は乗馬と愛犬の散歩。



—中央通りを歩いていると、ビルの中に突然現れる「のぼり」と寄席太鼓に目を奪われます。鈴木演芸場さんは2007年に150周年を迎えられたそうですが、その歴史を教えてください。

安政4年(1857年)に初代の鈴木龍助が上野の地で「軍談席本牧亭(ぐんだんせきほんもくてい)」という講釈場(\*)を始めました。当時の上野は地形が横浜に似ていたうえ、向かいに「金沢」というお菓子屋さんもあったので、横浜の地名から取って「本牧亭」と名付けたそうです。明治に入ってから、苗字の「鈴木」と本牧亭の「本」を組み合わせて「鈴木」となりました。場所は今の鈴木演芸場の裏辺りで、それが中央通りを挟んで向かい側に移り、関東大震災以降に現在の場所に移りました。昭和46年に従来のイメージを塗り替える「ビルの中の寄席」となり、芸人さんやお客様、地元の方々のお力により、上野の新名所として定着することができました。

(\*)講釈場＝「講釈」の常設の寄席。「講釈」とは寄席演芸のひとつで、軍記物を朗読するもの。明治以降は「講談」と呼ばれる。

—これまで寄席に行ったことがない方のため、番組や料金について教えてください。

鈴木では、落語・漫才・曲芸(\*)・紙切り・奇術(マジック)・ものまね・曲独楽(\*\*)など多種多様な番組を10日毎に変えて上演しています。料金は昼の部・夜の部それぞれ2,800円で、シニア割引・学生割引もあります。

(\*)曲芸＝神様に奉納する神事芸能「太神楽」から発展した技芸のひとつ。和傘の上で物を廻したり、くわえた撥の上に土瓶を乗せて動かしたりなど。(\*\*)曲独楽:きょくごま＝こまを使った曲芸。日本刀に乗せたり、綱渡りをさせたりなど。

—クラシックのコンサートと違うのはどんなところですか？

クラシックのコンサートは通常2時間ですが寄席はたとえば昼の部なら4時間と長く、その間14組ほどの芸人さんが入れ替り立ち替り芸を披露します。1組あたりの持ち時間は約15分ですので、途中からでも内容が分かります。また客席で飲食ができますので、モーニングコンサートが終わってそのままお越し頂いても、お弁当を食べながらお楽しみ頂けます。

—「落語」はまさに日本の伝統話芸ですが、落語の魅力、醍醐味とはどんな所でしょうか？

今の時代はデジタル化が進み、情報が溢れています。特に目から得る情報はそのまま思考に直結しやすく、それに慣れると、なんでも与えられた映像から物事を判断するようになってしまいがちです。落語の舞台(高座)はいたってシンプルで、ただ人間がひとり座って噺をするだけです。聴く人はその噺を頭の中で映像化するので、一つの落語でも10人いれば10通りの噺になるのです。その楽しみ方は、クラシックのコンサートとも共通した落語の魅力ではないかと思います。

【お店情報】 東京文化会館から徒歩5分

## 鈴木演芸場

〒110-0005 東京都台東区上野2-7-12

電話:03-3834-5906(11:30～)

番組案内:03-3834-0311

<http://www.rakugo.or.jp/index.html>

定休日:毎月31日(特別興業の場合は開館)/12/29～31

【昼の部】

12:00開場

12:30開演

16:30終演予定

【夜の部】

17:00開場

17:30開演

20:40終演予定

\*全席自由席当日売

